

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	1	名称	文化財の保護と活用			
主担当部	生涯学習部		主担当課	文化財課		部長名	榎谷 仁志
関係部	総合政策部		関係課	企画政策課 世界遺産推進課 歴史に憩う榎原市博物館			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民や来訪者が、世界遺産登録を進めている資産をはじめとする本市の豊かな歴史遺産との出会いにより、歴史や文化の価値を学び、体感できるまちを目指す。そのために、本市を特色づける貴重な歴史遺産を適切に維持管理し、将来にわたって良好な状態で保存し、活用を進めることで、市民や来訪者にとって歴史遺産が身近な存在であることへの理解促進と愛護意識を高めていく。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	発掘調査成果や博物館での展覧会・イベント、世界遺産等についての問い合わせが増加しており、文化財の公開、史跡整備の早期実現化、博物館での展覧会やイベント内容への要望が多く寄せられている。これらのニーズに応えるためには国内外に向けて文化財の重要性を発信する啓発活動、調査成果の公開活用、市民や来訪者がより快適に学び、交流できる環境整備が必要である。	国・県からの助成を受けて実施している事業については、年々財政状況の悪化から財源確保が困難な状況である。また、国は文化財の適切な保存とともに、まちづくりや地域活性化の資源とする保存活用施策を推進しており、本市においても史跡の整備、歴史遺産の特性を活かした、文化財活用の取組や博物館など情報発信拠点の効果的運用が求められている。
これまでの成果	史跡植山古墳の整備は、整備工事の予算確保に向けて関係機関等と協議を進めている。そのほか、世界遺産候補地をはじめとする史跡・名勝を将来へ継承していくための保存活用計画(案)を、文化財審議会第2部会での検討を経て作成した。また博物館では、多くの人が榎原市の歴史への理解を深め、文化財と触れ合う場を提供している。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	
指標の推移	施策指標① (成果指標)	特別史跡藤原宮跡の国有化(単位:㎡)	507,384	518,741	518,888	529,000	講演会等参加数2,208人含む
	施策指標② (成果指標)	史跡丸山古墳の公有化(単位:㎡)	65,682	66,168	66,157	66,267	
	施策指標③ (成果指標)	歴史に憩う榎原市博物館入館者数(単位:人)	10,236	10,000	7,898	10,000	
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		280,446	277,370	266,089	189,055	
	歳入 (b)	受益者負担額	17,418	68,179	21,222	22,094	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	106,236	94,552	112,709	52,997	
	(a) - (b) = 一般財源		156,792	114,639	132,158	113,964	
	正職員	従事者数 (単位:人)	14.30	14.45	14.65	14.85	
		人件費(c)	92,950	83,853	85,014	86,175	
トータルコスト (a) + (c)		373,396	361,223	351,103	275,230		

## 5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	史跡の保存整備活用事業の着手に向けて、計画に沿った公有化が進んでいる。また博物館の入館者数は減少しているものの、館の取組への国内外からの研修・視察が増加している。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	史跡地の公有化を進めることにより、史跡の保存整備活用事業が実現に向け、前進している。また世界遺産登録や本市の史跡の整備の実現が早ければ早いほど、本市の史跡の活用事業の推進に大きく寄与することができる。博物館の常設展や特別展・企画展、講座等を通じて、日本国内の文化財と当市の文化財との関わりを広く啓発していった結果、本市の豊かな歴史遺産への理解と愛着が深まりつつある。				

## 6. 施策の課題

この施策の課題	史跡の保存整備活用事業を実施するには、史跡地の公有化が不可欠である。公有化を進めるには地権者の理解と協力、財源確保が前提であり、加えて公有化必要面積が広大であるため、公有化完了まで長期間を要する。当市及び民間開発の事業に伴う発掘調査は、専門職員不足のため迅速に実施するのが困難な状況である。本市の文化財への関心・理解をより多くの人に深めてもらうため、博物館への入館者数拡大が必要であるが、特別展・企画展やイベントの定期的な開催のための学芸員の人員が不足している。
---------	---

## 7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	史跡地の公有化を継続的に進めるため、地権者との交渉と財源の確保に取り組む。世界遺産登録に向けて研究している顕著な普遍的価値を広める取り組みや博物館での市民や来館者に親しまれる展示等を通して、文化財愛護の意識向上を進めていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

## 8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	本市の豊かな歴史遺産を守り伝えるため、史跡の整備・保存・管理に係る事務事業は拡大していく。また、世界遺産登録に向けた顕著な普遍的価値の研究や文化財愛護の意識向上のための啓発活動を継続し、博物館においては、文化財への関心・理解を多くの人に深めてもらうために、特別展やイベントなどの活用事業を拡大する。
2次評価	説明	

## 9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

### ※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産PR看板の掲出(全9回)</li> <li>・橿原市のPR活動(全6回)</li> <li>・エスコートキッズ及び試合観戦者招待(全2回)</li> <li>・ミステリーツアー(全2回)</li> <li>・サッカー教室の開催(年1回)</li> <li>・市の広報誌で所属選手による橿原市および世界遺産のPR(年10回)</li> </ul>	2 現状のまま継続	c	見直しながらかつ続ける	D
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))		2,106 (千円)			
2	世界遺産推進課	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会において、顕著な普遍的価値の言明案や緩衝地帯の設定の検討等、登録に向けた推薦書作成準備を行うと共に、「飛鳥・藤原」の魅力講演会・巡回パネル展等を通して分かりやすく伝える啓発活動を実施する。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て、特別史跡の指定範囲の拡大を推進する。また、推薦書作成準備の一環として、構成資産の保存活用計画を作成する。なでしこジャパンに多くの選手を輩出している女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、世界遺産登録に向けて知名度アップを図る。	1 拡大する	a	拡大する	A
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))		16,074 (千円)			
3	世界遺産推進課	国による本格整備の早期実現に向け、藤原宮跡内の用地買収を推進し、史跡地内の民有地の公有化を図る。藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される藤原宮跡整備協力委員会の協力を得て、春・夏・蓮・秋・朝堂院東ゾーンで花の植栽を行う。また橿原市HPや啓発用ポスター・チラシなどでPR活動を行い、藤原宮跡の知名度向上を図る。更に橿原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。	1 拡大する	b	見直しながらかつ続ける	C
	藤原宮跡等整備対策事業 (ソフト(任意))		20,900 (千円)			
4	文化財課	指定文化財の修理・維持管理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。	1 拡大する	a	拡大する	
	文化財保護管理活用事業 (内部管理・維持管理)		137,038 (千円)			
5	文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。</li> <li>・土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。</li> <li>・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。</li> <li>・発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。</li> </ul>	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	
	埋蔵文化財発掘調査事務事業 (内部管理・維持管理)		63,322 (千円)			
6	歴史に憩う橿原市博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展や企画展、講座等の活動を実施する。</li> <li>・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。</li> </ul>	1 拡大する	a	拡大する	B
	博物館運営事務事業 (ソフト(任意))		26,649 (千円)			

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	山風呂 佳史				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	1	文化財の保護と活用						
	予算事業名	スポーツ推進事業費								
	事業の開始年度	平成	24	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	市民			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産PR看板の掲出(全9回)</li> <li>橿原市のPR活動(全6回)</li> <li>エスコートキッズ及び試合観戦者招待(全2回)</li> <li>ミステリーツアー(全2回)</li> <li>サッカー教室の開催(年1回)</li> <li>市の広報誌で所属選手による橿原市および世界遺産のPR(年10回)</li> </ul>				
	事業の目的	世界遺産登録に向けた啓発やPR活動を行うとともに、青少年の健全育成、地域の活性化を図る。								
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
説明		世界遺産登録に向けた啓発・PR活動と、青少年の健全育成、地域の活性化を目指した事業であるため、市が関与することが望ましい。今後、さらに発展させるために手法を検討することも必要である。								
やめた場合の影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	世界遺産登録に向けた啓発・PR活動の発信の場が減少し、青少年の健全育成、地域の活性化に支障が出る。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	サッカー教室参加者			161	150	123	150	150	
	活動指標①	エスコートキッズ参加者			44	44	44	44	44	
	活動指標②	市民招待デー参加者			129	200	194	200	200	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			2,904	2,497	2,106	8,224		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			2,904	2,497	2,106	8,224		
正職員		従事者数(単位:人)			0.80	0.80	0.75	0.75		
		人件費(c)			5,200	4,642	4,352	4,352		
トータルコスト(a)+(c)			8,104	7,139	6,458	12,576				
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )									
備考(これまでの実績等)	平成27年度までは世界遺産推進事業として取組んでいたが、平成28年度からシティセールス推進事業として取組むことになる。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	会場でのPR活動や、エスコートキッズ・試合観戦者招待等を実施することで、世界遺産登録に向けた啓発・PR活動と、青少年の健全育成、地域の活性化を図ることができている。ただ、応募者が減少しているため、さらなる広報の充実等で、市民が関心を持てる内容を提案していく必要がある。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	メディアを通じて全国的にPRをすることで、橿原市のシティセールス及び世界遺産登録に向けた知名度の向上を図ることができる。またサッカー教室等の実施により、青少年の健全育成に貢献できる。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	世界遺産登録に向けた啓発や橿原市のPR方法を工夫・改善することで、より効果的にPRできるように努める。また、市民招待及びサッカー教室等の実施を工夫・見直しすることにより、諸経費の削減を検討する。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		INAC神戸との連携によるメディアを通じたPR効果を積極的に活用し、世界遺産登録に向けた気運を高めていくとともに、橿原市のシティセールスとしても活用を図る。また、エスコートキッズや試合観戦者招待及びサッカー教室等の参加者の増加を図ることで、青少年の健全育成に努めていく。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		コストの削減と有効性の向上に努めながら、平成28年度から橿原市のシティセールス推進事業として取り組んでいく。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業							
	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	予算事業名	世界遺産登録推進事業費							
	事業の開始年度	平成	19	年度	事業の終了予定年度	平成 年度			
	対象	史跡等(構成資産)・市民(国民)		事業の内容説明	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会において、顕著な普遍的価値の言明案や緩衝地帯の設定の検討等、登録に向けた推薦書作成準備を行うと共に、「飛鳥・藤原」の魅力を講演会・巡回パネル展等を通して分かりやすく伝える啓発活動を実施する。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て、特別史跡の指定範囲の拡大を推進する。また、推薦書作成準備の一環として、構成資産の保存活用計画を作成する。なでしこジャパンに多くの選手を輩出している女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、世界遺産登録に向けて知名度アップを図る。				
	事業の目的	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指し、構成資産(史跡等)がもつ本質的価値を証明する範囲を定め、必要に応じて指定範囲の拡大を図る。また史跡等の保存活用計画の作成、更に史跡等の周辺環境を保全する緩衝地帯を設定し、世界遺産に相応しい資産を証明することを目的とする。							
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
説明		奈良県・桜井市・明日香村と共に本市が世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」を人類全体のための遺産として、損傷・破壊などの脅威から保護し、保存していく責務がある。							
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
	説明	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は、平成19年1月に世界遺産暫定一覧表に記載され、登録に向けた取り組みを一層強化すべき状況下で取りやめることは、世界的な評価を得ることが出来ず、国民の貴重な文化遺産としての価値を下げることになる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度	28年度	29年度(総計目標)		
				実績	計画	実績	見込み		
	成果指標	世界遺産登録		—	—	—	—		
	活動指標①	指定拡大達成率		80.7	81.0	81.1	81.3		
	活動指標②	広報掲載回数		12	12	11	12		
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)			19,787	21,164	16,074	3,955	
		歳入(b)	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			3,900	4,550	4,550	
		(a) - (b) = 一般財源			15,887	16,614	11,524	3,955	
正職員		従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	2.30	
		人件費(c)			19,500	17,409	17,409	13,347	
トータルコスト(a)+(c)			39,287	38,573	33,483	17,302			
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )								
備考(これまでの実績等)	登録推進協議会での推薦書作成準備作業では、国内外の類似遺産との比較研究や海外の専門家を招聘し、顕著な普遍的価値や構成資産の検証などを続けている。藤原宮跡では特別史跡の指定範囲の拡大が着実に進んでいる。また、登録推進協議会と連携し、集客イベントの開催や啓発グッズの配布などにより世界遺産登録に向けたPRを実施している。								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	登録推進協議会において、海外専門家を招聘するなど、重要課題である顕著な普遍的価値の検証に取り組んでいる。本市でも構成資産の保存活用計画の作成に取り組むなど、登録に向けての推薦書作成準備は着実に進捗している。また、藤原宮跡では多くの地権者の理解により、指定範囲の拡大が図れている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	世界遺産登録に向けた取り組みは、本市の文化遺産の価値を学び、保護への意識を高めることに繋がると共に、まちづくりや観光の資源として地域の活性化も図れることから、貢献度は高いといえる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明	構成資産の史跡範囲の拡大と共に、登録推進協議会における顕著な普遍的価値の検証、また、包括的保存管理計画や推薦書原案の作成などの準備作業を加速させる必要があり、更なるコストや時間の増加が不可欠となる。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会では、海外の専門家から頂いたアドバイスをもとに、包括的保存管理計画や推薦書原案の作成を速やかに取り組み、登録に向けてのシュミレーションを行う必要がある。このシュミレーションを行う過程で現在抱えている様々な課題を克服できると予想され、早期の世界遺産登録に期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
		4 廃止又は休止する	5 完了する							
		説明	登録推進協議会における包括的保存管理計画や推薦書原案の作成などの準備作業を加速させるため、更なる調査研究が必要となると共に、啓発事業においても、国内外へ向けて広く情報を発信することが必要となることから、負担金の増額が不可欠となる。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	藤原宮跡等整備対策事業								
	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	1	文化財の保護と活用						
	予算事業名	藤原宮跡等整備対策事業								
	事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成 年度				
	対象	特別史跡藤原宮跡への来訪者			事業の内容 説明	国による本格整備の早期実現に向け、藤原宮跡内の用地買収を推進し、史跡地内の民有地の公有化を図る。藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される藤原宮跡整備協力委員会の協力を得て、春・夏・蓮・秋・朝堂院東ゾーンで花の植栽を行う。また榺原市HPや啓発用ポスター・チラシなどでPR活動を行い、藤原宮跡の知名度向上を図る。更に榺原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。				
	事業の目的	国民の貴重な文化遺産として世界遺産暫定一覧表に記載された特別史跡藤原宮跡を後世に継承し、また史跡の活用として花園整備を行うことにより、史跡地の荒廃防止及び景観形成・保全に配慮し、来訪者や地域住民が文化遺産に愛着を持てるような整備等を行うことを目的とする。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
説明		世界遺産登録を目指している特別史跡藤原宮跡は、本市の貴重な観光資源でもあるため、文化庁もしくは国土交通省が実施する本格整備までの間、暫定的な活用により、知名度向上とともに地域の活性化を図る必要がある。								
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	藤原宮跡の公有化が着実に進捗し、国による早期の本格整備が望まれている状況下で花園整備等を取りやめた場合、来訪者や地域住民が文化遺産にふれあう場を失い、史跡地の荒廃化が進むことが予想され、世界遺産登録や本市の観光施策に多大な影響を及ぼす事となる。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	榺原市藤原京資料室来室者数			11,450	14,500	13,369	14,000	14,500	
	活動指標①	榺原市HPの更新			40	35	40	35	35	
	活動指標②	啓発用ポスター等の掲出、チラシの配布			ポ450 チ25,000	ポ450 チ22,000	ポ390 チ25,000	ポ360 チ22,000	ポ360 チ22,000	
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			31,219	19,671	20,900	27,219		
		歳入 (b)	受益者負担額			155	155	154	182	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)						5,321	
		(a) - (b) = 一般財源			31,064	19,516	20,746	21,716		
正職員		従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	3.10		
		人件費(c)			19,500	17,409	17,409	17,989		
トータルコスト(a)+(c)			50,719	37,080	38,309	45,208				
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )									
備考 (これまでの 実績等)	特別史跡藤原宮跡指定地内の用地買収を推進し、公有化面積は着実に増加している。花の植栽は年々リピーターやメディアの注目を集めており、藤原宮跡の知名度アップに繋がっている。藤原京資料室は毎年1万人以上の来室者数を数え、藤原京模型等を通じて宮跡の解説に貢献している。									



CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	<p>榎原市藤原京資料室への来室者数、花園の開花時期の問い合わせ電話や雑誌・テレビ等の取材の申し込み、旅行会社の観光ツアーへの組み入れ、大型バスの駐車場利用の問い合わせなどこれら全てが増加傾向にあることから、特別史跡藤原宮跡の周知・啓発効果が確実に表れている。</p>						
評価	効率性評価	現時点での有効性を評価してください	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	<p>特別史跡藤原宮跡の暫定的な活用による花園整備は、来訪者や地域住民が文化遺産にふれあえる取組みであると共に、本市における有数の観光資源としての役割を担っている。近年の認知度の高まりから見てもその貢献度は高いといえる。</p>						
ACTION	修正行動	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率がよく、これ以上の改善は見込めない	2 効率がよいが、さらに改善できる余地はある	3 効率が低く、改善が必要	4 効率が低い、改善が見込めない		
		説明	<p>花園整備や榎原市藤原京資料室の運営は、藤原宮跡整備協力委員会に直接経費のみで委託していることや、PRについても集客施設や観光拠点等への無料掲出を条件に依頼していることから、コスト軽減の余地はない。</p>						
ACTION	修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	<p>藤原宮跡の花園のPRを榎原市HP等で効果的に行ったことにより、来訪者は増加し、隣接する藤原京資料室の来訪者は前年度+2,000人という結果が出た。今後、休憩施設や駐車場、トイレ等を増設し更なる利便性向上が必要とされる。花の植栽を用いて地下に眠る遺構などを表現するといった更なる手法を用い、華やかさのみならず、文化遺産としての藤原宮跡を来訪者や地域住民にわかりやすく伝える必要がある。藤原京資料室内に展望室を設け、地上で見ることのできない藤原宮跡の新たな魅力を来訪者に提供する。このような施策を講じることで、リピーターや新規来訪者の増加に繋がり、藤原宮跡の知名度向上や地域の活性化が期待できる。</p>						
		この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する	課内優先度
		説明	<p>藤原宮跡の一層の知名度向上や地域の活性化を図るためには、花園整備等の暫定的な活用事業の充実や利便性の向上が求められることから、今後更なる予算を投じる必要がある。</p>						

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( 内部管理・維持管理 ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	文化財保護管理活用事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
		施策	1	文化財の保護と活用				
	予算事業名	報償給与費、文化財保護総務費、史跡等保存整備事業費、八木札の辻交流館管理運営費						
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	指定文化財		事業の 内容説明	指定文化財の修理・維持管理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。			
	事業の 目的	市指定文化財への指定や、指定文化財の所有者・管理者が行う維持に係る経費を補助し、文化財の適切な保全と次世代への継承を目的とする。更に整備に向けた史跡の公有化を進め、公有化済みの史跡は適切に管理を行い、整備を実施する。また、文化財の普及啓発を通じて、文化財愛護の精神を高める。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明						
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	
	成果指標	史跡丸山古墳公有化(%)		78	78	79	79	82
	活動指標①							
	活動指標②							
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		138,792	130,470	137,038	86,008	
		歳入 (b)	受益者負担額	38	44	61	37	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	79,339	79,889	84,337	39,489	
		(a) - (b) = 一般財源		59,415	50,537	52,640	46,482	
正職員		従事者数(単位:人)	1.90	2.20	2.20	2.70		
		人件費(c)	12,350	12,767	12,767	15,668		
トータルコスト(a)+(c)		151,142	143,237	149,805	101,676			
単位当 りコスト	計算式等 ( )/( )							
備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	史跡等の維持管理及び活用等を実施することにより、指定文化財への見学者が増加する。更には史跡等文化財の毀損が発生した際にも、適切な維持管理を行ってれば被害の早期発見につながり、経費の縮小に反映される。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史事象を実際に体感できる史跡等文化財を良好に維持管理及び活用することで、市民が文化財を身近に感じる場として利活用する機会が増え、文化財に対する愛護や保護の意識の高揚につながる。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	史跡の公有化が進むことにより管理に係る経費は増加する。しかし適切に維持管理を行うことにより、文化財の劣化や損傷を最小限に抑え、修理に係る経費を削減することができる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成24年度に創出された史跡等整備活用補助金などを積極的に活用する事により、市単独経費の割合を軽減していく。 また地域住民と協働で史跡の環境維持を行う事により、指定文化財等の良好な維持管理が図る事ができると共に、地域住民の文化財愛護の精神を高める事ができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
説明		早期に史跡指定地等を公有化し、整備事業を推進して文化財の活用の促進を図ると共に、文化財保護の啓発活動をより一層進めていく。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( 内部管理・維持管理 ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事務事業						
担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
	施策	1	文化財の保護と活用				
予算事業名	緊急発掘調査等事業費、民間受託等発掘調査事業費						
事業の開始年度	昭和	58	年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	埋蔵文化財			事業の内容説明	・文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。 ・土行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。		
事業の目的	埋蔵文化財の保護						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明					
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
説明							

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標						
活動指標①						
活動指標②						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出(直接事業費)(a)		57,778	75,094	63,322	30,739
	歳入(b)	受益者負担額	14,930	64,957	19,540	18,707
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	22,997	10,113	23,822	8,187
	(a) - (b) = 一般財源		19,851	24	19,960	3,845
	正職員	従事者数(単位:人)	3.05	3.10	3.25	3.45
		人件費(c)	19,825	17,989	18,860	20,020
	トータルコスト(a)+(c)		77,603	93,083	82,182	50,759
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )					
備考 (これまでの実績等)						

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	設計の見直しや発掘調査により埋蔵文化財の保護が図られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	発掘調査の成果を報告書として刊行し、埋蔵文化財の公開と活用に努めている。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	埋蔵文化財包蔵地における、建築、土木行為等の計画立案時点から、奈良県埋蔵文化財取扱基準に準拠する埋蔵文化財保護の協議を積極的に行い、試掘調査及び本発掘調査の件数を軽減する。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		土木行為等に伴う発掘調査は、人員不足のため迅速に実施するのが困難な状況であるため、職員を増員していく。職員の増員により、当市のインフラ整備が早期に実現され、民間資金が当市に投入される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	法定受託事務及び権限委譲事務のため、事務の内容・量に大幅な改変はない。					

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月31日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	博物館運営事務事業						
	担当部名	生涯学習部	担当課名	歴史に憩う檀原市博物館	課長名	竹田 正則		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
		施策	1	文化財の保護と活用				
	予算事業名	報酬給与費、博物館管理運営費、展示事業費						
	事業の開始年度	昭和	53	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
対象	入館者		事業の内容説明	・特別展や企画展、講座等の活動を実施する。 ・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。				
事業の目的	入館者に快適な見学空間を提供し、また、資料を保管し後世に伝えるため、適切に施設を管理・運営し、資料の展示・保存等を通して文化財の保護・活用を図る。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
	説明	本市の歴史や文化財を紹介し、市民等へ文化財への理解を促し、郷土愛を育む機会を創出することは行政の義務である。						
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	市民が本市の歴史や文化に触れ、理解する機会を失うことになる。また、国民共有の財産である文化財に対する保護精神が希薄となり、本市の文化財が消滅し、本市の資産としての歴史資産を失うこととなる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	入館者数		10,236	10,000	7,898	10,000	10,000
	活動指標①	展覧会開催数		4	4	5	3	3
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		29,966	28,474	26,649	32,910	
		歳入(b)	受益者負担額	2,295	3,023	1,467	3,168	
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
		(a) - (b) = 一般財源		27,671	25,451	25,182	29,742	
		正職員	従事者数(単位:人)	2.55	2.35	2.45	2.55	
			人件費(c)	16,575	13,637	14,217	14,798	
	トータルコスト(a)+(c)		46,541	42,111	40,866	47,708		
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(成果指標)	5	4	5	5			
備考 (これまでの実績等)	(参考)平成28年度より生きがい教室運営補助事業(主務課:福祉総務課の補助執行)を再任用職員2名が主として担当している。							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	26年度と比較して入館者数は減少しているものの、本市の歴史を体感・体験しながら学ぶことのできる博物館として、市民をはじめ、小学校から国内外の大学に至るまで学校教育等のニーズに寄与している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	文化財に関する情報を広く発信できるだけでなく、観光の拠点としての性格も持っているため、入館者に本市の歴史や文化と触れ合う場を広く提供できる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	一括契約の実施や、入札等の契約規則に則った予算執行を実施しているため、コスト削減できない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		指定文化財の展示を含めた年3回の展覧会とその関連行事や、体験型学習イベントを実施する。展覧会への入館者やイベント参加者の増加は、本市の歴史・文化財に対する啓発促進につながり、郷土愛の育成と、文化財愛護や保護の意識向上につながる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	B	
		説明	学芸員と予算を確保し、指定文化財の展示も含めた展覧会を開催するほか、講演会や体験講座など、啓発イベントの開催を拡充する。							